

管理作業の省力化及び大玉生産が可能なブルーベリーの交互結実剪定法

【概要】

岩手県のブルーベリー栽培面積は減少傾向であり、省力的な栽培技術の開発が期待されています。そこで、ブルーベリーの簡易剪定方法（以下、「交互結実剪定」という。）の確立を目的に、果実生産や作業時間に与える影響について明らかにしました。

1 交互結実剪定の方法

(1) 交互結実剪定は、着果させる主軸枝（着果枝）と、着果させず翌年の良質な結果枝を養成させる主軸枝（養成枝）を、交互に配置させる剪定法です（図1）。

2 交互結実剪定の効果

(1) 本剪定は切除の対象となる枝が明確であるため、10aあたりの剪定時間は慣行比71%になり、収穫を含めた管理作業時間を削減できます（表1）。

(2) 本剪定は切除する結果枝が多いため、収量は慣行比55%になりますが、販売に有利で高単価が期待できる大玉果割合が増加します（表1）。

(3) 収穫果実1kgあたりの作業時間は慣行比86%となることから、労働生産性が向上します（表1）。

【試験データ等】

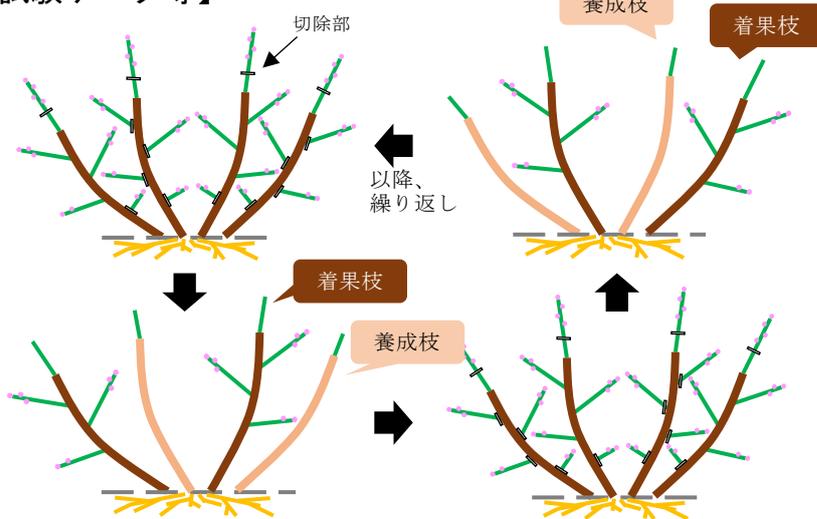


図1 交互結実剪定の方法

【図1 摘要】

- ① 着果枝では弱い枝や樹冠内部の枝を間引き、養成枝では主軸枝から発生しているすべての枝を切除する。主軸枝先端は葉芽で切り、樹冠拡大を図る。
- ② 着果枝では果実を収穫し、養成枝では翌年に収穫するため良質な新梢を養成する。
- ③ ②で着果枝であった主軸枝は養成枝に、養成枝であった主軸枝は着果枝になるよう剪定を行う。
- ④ 以降、同様に剪定を繰り返す。

表1 交互結実剪定法が果実生産及び作業時間に及ぼす影響（R1～R7平均）

品種	試験区	収量 (kg/10a)	果実の大きさ(%)		作業時間(hr/10a)			果実1kgあたりの作業時間 (分:秒)
			22mm未満	22mm以上	剪定	収穫	計	
チャンドラー	慣行剪定	935	74.2	25.7	34	127	161	16:11
	交互結実剪定	510 (55%)	67.5	32.5	24	73	97 (60%)	13:57 (86%)

※植栽本数333樹/10aで試算

※ () 内の数値は、慣行剪定を100とした割合

【令和7年度成果】 管理作業の省力化及び大玉生産が可能なブルーベリーの交互結実剪定法 (R7-指-13)